



潤子先生、 出番ですよ！



中島 潤子

長野県松本市(旧四賀村)生まれ。1987年(昭和62年)松本歯科大学卒業、6年半口腔外科学講座に勤務。その後8年間陸上自衛隊松本駐屯地に歯科医官として勤務。3等陸佐。2003年(平成15年)四賀村になかじま歯科医院を開院。歯学博士、ケアマネージャー。日本法歯学医学会 評議員。マサチューセッツ州立大学卒業。MBA取得。

長野県松本市から車で40分。
マッコウクジラの化石と松茸山に
見守られた高齢化の進む山間の地で、
患者さんと心が通じ合う
「真実の瞬間」を日々追い求める潤子先生。
元自衛隊歯科医官がお届けする
真実の奮闘記です！

.....
～真実の瞬間を求めて～

Vol. 59

.....

Junko Nakajima

歯科の先生が難治性皮膚疾患を改善させた！

9月10日、11日、東京で開催された第10回日本病巣疾患研究会学術集会で症例報告をしてきました。

喉の奥や歯肉、根尖部の慢性炎症が、身体の離れた部位に症状を起こすことを病巣疾患と言いますが、日本病巣疾患研究会は、医科歯科が連携してこの病巣疾患を解明していこうという学会です。特に最近ではコロナ後遺症やワクチン副反応の改善に有効な治療である上咽頭擦過療法: EATを普及させる活動に取り組んでいます。

今回、私が発表したのは「新型コロナワクチン接種後に増悪した掌蹠膿疱症とアトピー性皮膚炎の改善例」です。

コロナ後遺症と共に問題になっているのがコロナワクチンの副反応で、これは喉の奥の「上咽頭」と関連していることが多いのです。

上咽頭が乾燥して慢性炎症が起きると、めまいや皮膚疾患、腹部症状、睡眠障害など、さまざまな症状を起こしますが、口呼吸対策のマウステープや鼻うがい、慢性上咽頭炎の症状が改善することは多くの患者さんで経験していません。

もともと口呼吸対策で勤めていたマウステープですが、最近ではコロナ後遺症やワクチン副反応の予防や改善のためにも応用しています。

今回発表した掌蹠膿疱症の患者さんは60代の女性、2回目のワクチン接種後に両手に掌蹠膿疱症が出て、皮膚科ではあまり改善しませんでした。当院からのマウステープ、鼻うがいで症状は改善しましたが、3回目のワクチンを受けた翌日から激しいめまいが起き、手の症状が増悪しました。マウステープ、鼻うがいに加えて、鼻の奥に点鼻するミサトールリノローションを使うことで短期間にめまいと皮膚症状が改善しました。

もう1人は60代男性、やはり2回目のワクチン接種後に全身にアトピー性皮膚炎が出現(写真1は腹部の皮膚)、皮膚



科では全く改善せず「一生治らないと思ってください」と言われていました。この方もマウステープ、鼻うがいで皮膚症状が改善しましたが(写真2)、3回目のワクチン接種後に症状が増悪したため、ミサトールリノローションを加えて実施していただいたところ、すぐに皮膚症状が改善し今ではアトピーの痕跡もなく安定しています(写真3)。

今回の発表でお伝えしたかったのは、コロナ後遺症、ワクチン副反応が「慢性上咽頭炎」と関連していること。EATを実施している医療機関は全国でも400軒足らずで、EATを受けられる患者さんは限られています。マウステープ、鼻うがい、ミサトールリノローションは慢性上咽頭炎を改善させるために有用であり、患者さん自身でできる簡単なセルフケアであること。またEATの治療効果を上げるためにもマウステープ、鼻うがい、ミサトールリノローションが有効であること、などです。

つい最近も、コロナ感染後やコロナワクチン後に継続していた味覚、嗅覚障害がマウステープで短期間に改善したケースがありました。

コロナ後遺症に関連して、たびたびテレビに出ている耳鼻科の先生が今回の学会に参加されていて、後日SNSで「歯科の先生が難治性皮膚疾患を改善させた!」と投稿して下さっていました。私の発表が医科の先生方を動かして、コロナ後遺症やワクチン副反応でお困りの方の症状改善の一助になることを願っています。